JF大分
水産おおいた
2025年11月
183号
発行元
大分県漁協
http://www.jf-oita.or.jp/

10月1日付け 辞令を交付

10月1日、辞令交付を行った。
新しい参事に永井真二郎氏（総務部長兼総務課長）、総務部長兼経営管理課長に小西英俊氏（経営管理課長兼別府支店長）が就任するなど新体制がスタートした。組合長の訓示にあったように、厳しい状況ではあるが、漁業者を支えながら前に進んでほしい。

「おおいた魚マーク」お披露目式

9月27日、JR大分駅北口駅前広場で、「おおいた魚（さかな）マーク」のお披露目式が開催された。
これは昨年開催された全国豊かな海づくり大会のロゴマークを魚食普及のシンボルとして県民への消費拡大の取組に活用することで、大会レガシーを次世代に継承、県産水産物への関心を維持することを目的とするもの。
式では、お笑いタレントのパンサー尾形さんも参加し、主催者の県農林水産部の大塚審議監が「魚離れが課題となる中、より親しみを持ってもらうよう魚マークを制作した。今後、県内のスーパー等でこれを目印とした催しを展開していく」と挨拶。
その後、ステージ上でマークをお披露目し、山上誠二「おおいた県産魚の日」運営委員会会長のコメントに続き、中根組合長が「本日、お披露目されたマークは、私たちが自信をもってすすめる大分の魚の証です。四季折々のおいしい魚をたくさん食べて」と話した。
最後に、11月10日まで県下126の量販店で開催される100名に抽選で県産魚が当たるキャンペーンのPRも行った。

マークのお披露

中根組合長のコメ

「信用事業譲渡推進室」が発足（10月1日付け）

九州信漁連への信用事業譲渡をすすめるため、10月1日、これまでの「研究会」を「推進室」に改め、譲渡に向けた課題の検証、対応策等の検討を本格的に行う組織を立ち上げた。構成員は以下の通り。

役職	氏名	漁協内所属・役職	備考
室長	西田淳一	信用事業部長	役職指定
副室長	橋本圭輔	信用事業部審査課長	役職指定
副室長	工藤誓子	信用事業部資金課長	役職指定
副室長	小西英俊	総務部長兼経営管理課長	役職指定(経営管理課長)
室員	佐藤伸弘	経済事業部長	役職指定
室員	平川ともみ	信用事業部資金課係長	役職指定
室員	植木千絵	総務部経営管理課主任	役職指定

漁船無事故「チャレンジ100」in大分2025 『宣誓式』

10月1日、佐伯市鶴見の公設市場において、漁船無事故「チャレンジ100」in大分の宣誓式が行われ、100日間の海難事故防止の取組がスタートした。
大分県海域では2020～2024年までの5年間で233隻の船舶事故が発生し、うち漁船が57隻で、全体の24%を占めている。
式では、中根組合長が「漁協としてこの啓発運動を通じ安定して水産物を食卓へ届けたい。保安部、県と連携し安全操業に努める」と挨拶。
その後、県漁業管理課平川千修参事が渕野農林水産部長の挨拶を代読、「安全操業によりもたらされる水産物を漁業者等と連携し、販売促進、消費拡大に力を注ぐ」とした。
結びに疋田一則鶴見地区漁業運営委員長が「引き続き事故のないように努め、獲った魚を皆の食卓に届けていく」と宣誓し、閉会。

気勢を上げる参加

浪井丸天水産が天皇杯を受賞

農林水産省は、10月2日、R7（第64回）農林水産祭の受賞者を発表し、本県代表として発表した浪井丸天水産（代表　浪井大喜氏）の「ブランドをつくる　若武者の挑戦」が、水産部門（経営　漁業経営改善）において天皇杯を受賞した。
県内漁業者の受賞は、23年ぶり3回目の快挙。おめでとうございます。
表彰式は、11月23日、明治神宮会館にて行われる。

浪井大喜さん

【受賞理由等】
4kgサイズの小型ブリ養殖で、ブランド化して販売し、小規模ながら生産、加工、流通の一貫体制を構築している。ターゲット層を定め、取引先からの要望を生産するサイズ決定や身質、鮮度のための飼料開発、自社での加工を行うなどマーケットインの発想に基づく養殖業を実現している。
また、種苗の採捕から養殖、販売までを自社で完結することで、経費や付加価値を的確に判断した上で、取引することで利益率の高い価格決定等に成功し、安定した収益性の高い経営体制を構築している。結果、ブリの出荷尾数は取組当初の4.3倍、売上金額は約3倍に増加した。加えて、休憩スペースを設置するなど職場環境の充実にも取り組んでいる。
ニッチ需要に注目し、独自の市場を開発していく視点を持った本取組は、他の小規模養殖経営体においても参考になると十分に考えられる。

R7大分県農林水産祭おおいたみのりフェスタが開催

10月18、19日、別府公園において開催された。18日は曇り、19日は少し雨がぱらついたものの、多くの来場者が訪れ朝から各ブースの新鮮な魚介類や農産品を買い求めた。県によると2日間の来場者数は72,000人で、昨年より1,000人増え盛況であった。

編集後記

東京湾でタチウオが、北海道などではスルメイカが大漁で、一部では漁獲規制が行われたことの。黒潮大蛇行の終息のせいかなどと言われている。大分の海にも良い影響があれば願う。急に寒くなり、インフルエンザも流行の兆し。ご自愛あれ。